

28年度 学校評価における自己評価について

認定こども園

鳥取第四幼稚園・はっぴい保育園

1. 園の教育目標

- | |
|---|
| <p>〈ゆたかで やさしく たくましいこども〉(3歳以上児)</p> <ul style="list-style-type: none">○ 自ら目標をもってたくましく活動する子ども○ 友達の気持ちを思いやり、協力し合って遊べる子ども○ 素直に感動する心を持ち、感動を創造豊かに表現できる子ども○ 豊かな生活経験の中から物事を知的に理解し、判断できる子ども○ 豊かな感性を持ち「生きる力」を身につけた子ども <p>〈こころも からだも すこやかに そだちあうこども〉(3歳未満児)</p> <ul style="list-style-type: none">○ こころも身体健やかで元気いっぱい遊ぶ子ども○ 保育者や友達に親しみ、心地良さや安らぎを感じ取れる子ども○ やさしくて思いやりのある子ども○ 感じたこと思ったことをのびのびと表現する子ども○ 物事に感動し、感性豊かな子ども |
|---|

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を元に設定した学校評価の具体的な目標や計画

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">○ 「豊かなこころ」を育てる教育・保育を行う<ul style="list-style-type: none">・乳児期における愛着形成を基礎とした情緒の安定や他者への信頼感の醸成、幼児期における他者とのかかわりや基本的な生きる力の獲得及び学童期にあける心身の健全な発達を通じて、ひとりひとりがかけがえのない個性ある存在として認められるとともに、自己肯定感をもって育まれる環境を整備し、子ども達の健やかな発達を目指す。・園内研修を行い、職員の共通理解を深め、園児のための教育・保育の充実を図る。・交通安全指導、避難訓練などを行い、安全管理の充実と、園児の安全意識の向上、保護者の安全管理の啓発に努める。 |
|---|

3. 評価項目の達成および取組状況

(1) こどもの好奇心を育み、思考力判断力を高めながら、豊かな心を育てる保育を計画・実践する。	B	保育計画・実践を通して保育の充実はいろいろな形で深まってきたが、子ども同士のかかわりを通じた異年齢の活動は時間の配分や遊びの提供などの課題があり、十分発展できなかった。今後も計画的な取り組みが必要だと考える。
(2) 園児一人ひとりの発達に合わせた教育支援を考え、共に育つ心の教育を充実させる	B	園児一人ひとりの課題を職員間で共有し、園全体で受け入れの態勢や、支援の在り方について話し合いを行ってきた。園内の職員間の相談・支援会議だけでは、保護者への理解を十分に得られず、専門機関との連携が得られるよう働きかけた。今後も充実させる必要がある。

<p>(3) 教職員の資質向上のための研究保育を充実させ、幼児理解や保育の在り方について考える</p>	<p>A</p>	<p>こども園の特性としての保護者のニーズもあり、利用時間の要望などから、長時間児・短時間児・1号認定児など、それぞれの子ども達への配慮は十分できた。園内研修等での教育的な効果も得られ、保護者の理解もある。子ども達の家庭生活についての情報収集と、園との連携の取り方について、引き続き丁寧に行うことが必要だと感じている。</p>
<p>(4) 健康・安全に関する教育活動について共通理解し、災害時の園児の安全確保・保護者対応など地域の特性を考えながら安全な環境づくりや、安全教育を進める。</p>	<p>B</p>	<p>10月の中部地震の際の園児避難は、防災頭巾をかぶったり、決められた位置へ避難したりすることができ、園児の安全確保が十分できていることを確認ができた。園内での「安全指導」「避難訓練」などは充実しており、子ども達には浸透していると感じている。しかし、地震後の保護者対応、地震の余震への対応や園バス運行、地域との連携などに課題があることが分かった。保護者への啓発はまだ十分でないと思われる。チャイルドシートを着用や送迎時の安全確認、保護者参加の避難訓練など計画していく必要があると感じている。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
<p>B</p>	<p>地域の中でのこども園への理解はおおむね得られ、近隣の小学校・地域の公民館・老健施設等の交流も定着している。また、子育て支援の事業にも多くの未就園児親子の参加があり、地域貢献もできていると考える。保育・教育についても保護者からの信頼は得られている。</p> <p>しかし、園児ひとりひとりの保護者からの相談や、支援の状況については、まだまだ不十分な点もあり、今後も丁寧なかかわりが必要とされる。</p> <p>安全教育も、想定外の有事に際し柔軟にかかわれるような体制づくりを考え、職員全体で迅速な対応ができるよう工夫する必要がある。</p>

5. 今後の取り組むべき課題

<p>教職員の共通理解・連携をしっかりと取る。</p>	<p>教育計画・保育内容の検討・環境の構成など、職員間の連携を深め、職員全体で研究に取り組み、より良い幼児教育が行える体制を充実させる。</p> <p>園児の成長発達の理解を深め、専門機関との連携を図れるよう取り組むことが必要である。</p> <p>また、常勤職員・非常勤職員の共通理解を深めるよう、各年次・各担当の会議を充実徹底させ、職員間の情報交換を丁寧に行い、お互いの職務の理解と、園児すべての子どもに対する理解を深め支援の充実を図るようにする。</p>
<p>危機管理</p>	<p>園生活の中で起こりうる園内事故について職員全体で把握し、研修を積みながら怪我の対応や落ち着いて協力しながら園児の命と安全を守る行動ができるしっかりとした園体制を作っていきたい。</p> <p>衛生面・流行性の病気などの園内感染を防ぐよう、季節に応じた園内環境を工夫すること、また、保育室・トイレ・ホールなど園舎の安全点検もしっかり行い、不備の場所は速やかに修繕し安全な環境を整備するように努める。</p>